

ライフデザインの学び方

将来の結婚や子育て、キャリア形成など、学生が自らライフデザインを考える機会をつくる取組を紹介する。

「大学生が創る未来への羅針盤」(静岡県)

静岡県内の大学・短期大学の学生グループ(ゼミ、研究室)が、就職・結婚・出産・子育てといった自らのライフデザインについて具体的に考える事業の企画¹を提案。有識者審査を経て採択された事業を約半年間、県の事業として大学生が自ら実施し、それらの成果も踏まえ、地域の活性化や少子化対策に繋

がる政策提言を公表するというもの。活動を通して学生たちが、自身のライフデザインについて考えるとともに、若い世代の柔軟な発想を県の少子化対策に生かしていこうという取組だ。

政策提言発表会では、就職・結婚・子育て等に関する住民へのヒアリング調査や、学生を交えたワークショップ、アンケートの結果等を踏まえ、個性豊かな提言がなされた。静岡県では、これらの政策提言を市町でも参考にしてもらい、今後の事業化を期待したいとしている。



静岡福祉大学は中高生向け「ふじのくに人生ゲーム」を提案。ゲーム中に、就職、結婚、出産等のライフイベントが用意されており、駒を進める中で、仕事や子育て等の質問に答える。



静岡英和学院大学は保育者をめざす学生たちが、先輩保育士を対象にしたライフデザインについてのアンケート調査や交流会を実施。子供を産み育てやすい職場の環境整備の必要性などを提言した。

1 企画に当たっては、2015(平成27)年度に静岡県が作成した、市町ごとに合計特殊出生率に影響する要因を雇用状況や住環境、児童福祉などの指標に細分化して地域分析を行った「ふじのくに少子化突破戦略の羅針盤」を活用することとしている。

『子どもを産み育てやすいニッポンへ』(Over Million Challenge実行委員会)

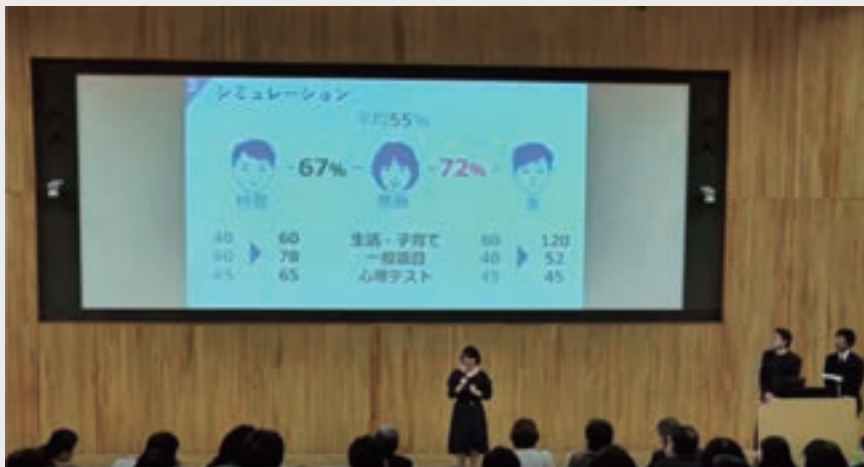
Over Million Challengeは、民間企業コンソーシアムが主催者となり、子供を産み、育てやすい社会にするために、今後どのような施策が必要か、学生たちに自分事として考える場を提供する取組である。

学生2～3名がチームとなり、コンテスト形式で提言を作成。一次選考を通過した5チームが合宿を行い、結婚・妊娠・出産・子育て支援等の講演や、現役パパ・ママのトークセッションにより見識を深め、提言内容に磨きをかけた。

今年のグランプリ受賞チームは、「現代型お見合い」を提言。結婚後の生活に焦点を当

てたデータマッチング¹を行って、双方の希望が合致すれば1週間「共同生活」してみるという新しいお見合いの形を提案。準グランプリ受賞チームの提言は「保育男子」。男子大学生と保育園をマッチングし、大学生が「保育男子」としてアルバイトをすることにより、子育てに対するイメージを早くから持ってもらう事業を提案した。

昨年グランプリを受賞したチームは、大学生が未就学児のいる子育て家庭に1日留学する「家族留学」²を提言。現在までに約400人の学生が実際にこのプログラムに参加し、自治体との連携も行うなど活動を広げている。



「現代型お見合い」では、プロフィールや「結婚後の生活に関する希望」などをデータベース化し、相手をマッチングする。

- 1 プロフィールや価値観などをデータベース化し、相性のあう相手をマッチングするもの。
- 2 希望する学生と受け入れ家庭をマッチングし、ロールモデル（父親・母親）との交流、育児体験を通して、ライフキャリアの選択や、結婚、出産、子育てを学ぶ機会を提供するという取組。